

別添3

厚生労働科学研究費補助金
(地域医療基盤開発推進研究事業)
患者のケア移行に伴う薬剤師間の情報連携の現状課題の把握と
その解決に向けた調査研究 (24IA002)
分担研究報告書

「急性期における患者のケア移行時の薬剤師間の情報共有・連携の現状調査」

研究代表者	寺田智祐	京都大学	医学部附属病院	教授・薬剤部長
研究分担者	松尾裕彰	広島大学	病院薬剤部	教授・薬剤部長
研究協力者	柴田ゆうか	日本大学	薬学部	教授
研究協力者	吉川 博	広島大学	病院薬剤部	薬剤師
研究協力者	幾田慧子	京都大学	医学部附属病院	特定助教

研究要旨

本研究は、急性期医療における患者のケア移行時の薬剤師間の情報共有・連携の現状を明確にし、効果的な連携体制を提案することを目的とし、令和6年度では日本における論文等の報告を調査し、現状課題の抽出、論点整理を行った。令和7年度においては研究を発展させ、医療従事者に対するアンケート調査やインタビューを通じて課題に対する解決策の模索を行った。調査の結果、急性期医療における薬剤情報連携の現状と課題、それに対する具体的な解決策が明らかとなった。正確かつ迅速な薬剤情報連携を実現するためには、標準的な情報連携統一フォーマット等の作成を行い、啓発活動を行っていくことが重要である。それと同時に、業務の効率化を目指したAI等の医療DXを活用する情報連携ツールの開発および普及が求められる。今後は、薬剤情報連携に関する統一フォーマットやツールについて更に情報を収集し、啓発活動を行う提言の作成を進めていく。

A. 研究目的

現代の医療における治療・療養の場の移行は多様化し、患者の連続的な治療と安全を確保するためには、医療従事者間での情報共有が重要となる。特に使用薬剤の管理と情報共有は、患者の安全と治療の質の向上に直結する。医師間・看護師間において

は診療情報提供書や看護サマリーによる連携が行われているが、使用薬剤についてきめ細やかな情報を共有することは困難なことも多い。薬剤師間(病院・病院間、病院・薬局間)の適切な情報共有も、マンパワーやモチベーションなどの課題から、道半ばである。日本病院薬剤師会が公表している「薬

剤管理サマリー」(病院・病院間、病院・薬局間)はこのギャップを埋めるための一歩であり、その使用により、退院後のイベント減少や服薬アドヒアランスの悪化防止、薬局薬剤師の服薬指導の質向上に寄与することが報告されている。しかし、マンパワーやモチベーションなどの課題から、十分に普及しておらず効果があるとは言い難い。さらに、急性期医療における病院内の連携(救急・周術期・ハイケアユニット間等)でも、情報連携の手順書が定まっていない。地域包括ケアシステムの更なる進化のためには、多様化する患者のケア移行時において薬剤師間の情報共有について現状課題の抽出、論点整理が必要となる。

そこで本研究は、急性期医療における患者のケア移行時の薬剤師間の情報共有・連携の現状を明確にし、効果的な連携体制を提案することを目的とし、令和6年度では日本における論文等の報告を調査し、現状課題の抽出、論点整理を行った。令和7年度においては研究を進展させ、医療従事者に対するアンケート調査やインタビューを通じて課題に対する解決策の模索を行った。

B. 研究方法

薬剤情報連携の実施状況および課題を明らかにするため、2025年9月3日から2025年10月24日までの期間に、急性期医療機関(500施設)の薬剤師ならびに医師、看護師を対象にアンケート調査を実施した。更に、薬剤情報連携について先進的な取り組みを行っている病院または医療施設の薬剤師を対象に、同意を取得した後、インタビュー調査を行い、薬剤情報連携の課題に対する具体的な解決策(ベストプラクティス)を聴取し

た。アンケート調査およびインタビュー調査は、研究代表者、分担研究者ならびに関連学会や行政などの有識者と議論を行い、原案を作成し実施した。

研究対象とした各ケア移行場面について、移行先を基に下記のように分類した。

- ①各場面から一般病棟への移行
- ②各場面から重症病棟への移行
- ③各場面から手術室への移行
- ④各場面から救急外来への移行

主な調査項目は下記の通りとした。

- ・各医療機関の基本情報および薬剤情報連携体制の現状
- ・各医療機関において薬剤情報の共有が可能な理由
- ・各医療機関において薬剤情報の共有が困難な理由
- ・各医療機関がケア移行期に必要とする薬剤情報及び情報連携の課題
- ・各ケア移行期において医療機関同士の薬剤情報連携を促進するための因子
- ・他職種がもつ各ケア移行期における薬剤情報連携への印象

(倫理面への配慮)

研究実施にあたり京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会の審査を受け承認され(R5120)、協力研究実施施設の承諾を得て実施した。

C. 研究結果

1. 薬剤師を対象としたアンケート調査から明らかとなった薬剤情報連携の現状と課題
2025年9月3日から2025年10月24日まで

の期間に、急性期医療機関（500施設）の薬剤師を対象に、薬剤情報連携の実施状況および課題を明らかにするため、アンケート調査を実施した。その結果、回答件数は165件（回答率 33.0%）であった。回答が得られた施設の内訳は、救命救急センター：116件、救急施設（その他大学病院を含む）：18件、救急施設（その他）：31件であった（図1）。薬剤師が常駐している部署としては、「一般病棟」が最も多く、次に「重症病棟」「手術室」が多い結果となり、過半数の施設で周術期薬剤管理加算の算定が行われていた（図2,3）。

各ケア移行における薬剤情報提供の実施状況は、一般病棟では、移行元がいずれの場合においても「十分に行われている（80%以上）」「行われている（60%以上80%未満）」の回答が多かった。重症病棟、手術室、救急外来においては、「行われている（60%以上80%未満）」の回答が多かった一方で「行われていない（20%未満）」も同程度の回答数であった（図4）。救急外来に薬剤師を配置している病院では、配置していない病院と比較して、ケア移行時における情報連携の頻度が高いことが明らかとなり、周術期薬剤管理加算の算定を行っている病院では手術室を中心とした薬剤情報連携が活発に行われていることが示唆された（表1）。

薬剤情報連携を行う上で活用されているツールとしては、一般病棟では、自宅や施設、他病院など病院外から移行する場合は、「お薬手帳」や「情報提供文書（他職種から）」が最も多く、重症病棟、手術室等の院内での移行時には、「電子カルテシステム」「薬剤師記録」がよく用いられることが明らかとなった。救急外来から一般病棟への

移行は、外来から移行した患者が院内に移行するため、「お薬手帳」「情報提供文書（他職種から）」だけでなく「電子カルテシステム」「薬剤師記録」も同程度活用されていることが明らかとなった。重症病棟及び手術室では、救急外来や一般病棟など院内からの移行が主となるため、一般病棟での院内連携と同様に「電子カルテシステム」及び「薬剤師記録」が最も多い結果となった。救急外来の場合は、院外からの移行が主となるため、「お薬手帳」や「情報提供文書（他職種から）」が多い結果となった（図5）。

各ケア移行において情報共有で問題となるものとしては、すべての場面において「情報不足」が問題となることが示唆された。それに加え、ケア移行に救急外来が関わる場合、「タイムラグの発生」が問題として挙げられた（図6）。情報共有が円滑に行われなかった場合の問題としては、いずれのケア移行場面においても「投薬エラーなどの医療過誤（再開・中止忘れを含む）」が最も多く、次いで「情報の再確認に時間がかかる」「副作用・相互作用の見逃し」が多い結果となった（図7）。薬剤情報の共有が難しいと感じる理由としては「情報共有のための時間不足」が共通の理由として挙げられ、外来から一般病棟または救急外来へ移行する場合は「情報共有ツールやシステムの未整備」「標準化された情報伝達フォーマットがない」ことが挙げられた。院内から重症病棟または手術室へ移行する場合は「情報共有すべき事項の知識・認識不足」が理由の一つとして挙げられた（図8）。

薬剤情報の共有が円滑に実施できている理由としては、院外から一般病棟または救急外来へ移行する場合は「お薬手帳などの

ツールを積極的に活用できている」ことが挙げられ、院内での連携では「電子カルテや薬剤情報共有システムを活用している」ことが挙げられた（図9）。

ケア移行時に必要とする情報は、いずれのケア場面においても「薬剤の変更歴（最近のもの）」「薬剤の使用理由」「ケア移行後のフォローアップの必要性」が挙げられた。それに加えて、院内の連携では「ケア移行目的・病名・治療内容・術式」の情報が必要との回答が多かった。さらに院内から一般病棟に移行する場合は「患者の変化・イベント」に関する情報が重要であり、手術室へ移行する場合は「検査値」が重要であることが示唆された。また手術室から移行する場合は、一般病棟及び重症病棟において「せん妄のリスクと術中対応」「PONVリスクと術中予防」の情報が重要であることが明らかとなった。救急外来に移行する場合は「既往歴」の情報も重要であることが明らかとなった（図10）。

各ケア移行場面が抱える課題としては、いずれの場面においても、救急外来からの移行や緊急手術において、正確な薬剤情報共有が困難となり、副作用歴の確認や休薬を要する薬剤使用の有無の確認に時間を要することが挙げられ、救急外来への薬剤師常駐や迅速な情報共有の実現を求める声が挙げられていた（表3）。

ケア移行時の薬剤情報連携を改善するための対策としては、院外から一般病棟または救急外来へ移行する場合は「システムの導入（電子カルテや共有プラットフォーム）」が最も多い結果となったが、いずれの場面においても「情報の標準化（統一フォーマットの作成など）」が共通して挙げられた（図

11）。

一方、各ケア移行における退院時の情報提供については半数以上が「行われていない（10%未満）」「ほとんど行われていない（10%以上30%未満）」の回答であった。その理由としては、「作成に時間がかかる」「退院予定が不規則でサマリー作成の予定が立てにくい」「退院日の決定が直前で退院時患者面談のタイミングが合わない」との回答が多かった（図12）。退院時の情報提供を円滑に行うための解決策としては、救急外来及び手術室への薬剤師の常駐、情報連携に用いるフォーマットの統一化、AIなどの医療DXを活用した薬剤情報連携ツールの整備などが挙げられた（表4）。

2.インタビュー調査から見てきた薬剤情報連携のベストプラクティス（表5）

薬剤情報連携について先進的な取り組みを行っている病院または医療施設の薬剤師を対象にインタビュー調査を行った結果、下記の具体的な解決策（ベストプラクティス）が得られた。

- ・救急外来または重症病棟からの移行
救急外来に24時間体制で薬剤師が常駐しており、電子カルテや医師サマリーを用いた情報連携が行われている例が挙げられた。その他にも電子カルテに搭載されているツールであるメール機能や付箋機能を活用し、病棟転棟時に薬剤の使用状況を共有している例が紹介された。

- ・一般病棟からの移行
薬剤管理サマリーを活用して退院時の薬剤情報を共有していることが明らかとなった。

また、地域ネットワークシステムを活用し、院外との情報連携を行っている事例も紹介された。

・手術室からの移行

周術期に共有が必要な情報のチェック項目を医師と薬剤師が協働して作成し、その内容を電子カルテのテンプレート機能を活用し、手術室担当薬剤師と病棟担当薬剤師が情報共有を行っている例が挙げられた。

3. 医師および看護師を対象としたアンケート調査から明らかとなった薬剤情報連携に対する印象

2025年9月3日から2025年10月24日までの期間に、急性期医療機関（500施設）の医師および看護師を対象に、薬剤情報連携に対する印象を明らかにするため、アンケート調査を実施した。その結果、回答数は、医師：258件、看護師：460件であった（図13）。回答した医師および看護師の内訳は、一般病棟の所属が最も多く、救急・重症病棟、手術室の順であった（図14）。

ケア移行時に薬剤師が提供する情報の利用について、医師・看護師ともに、「利用している」「ときどき利用している」が半数を超える結果となり、多くの医師、看護師が有用であるとの印象を持っていることが明らかとなった（図15）。有用と感じる理由としては、「用法用量の詳細が記載されている」「副作用、アレルギーの情報がある」ことが挙げられた（図16）。一方で有用と感じない理由として「提供がない」「情報がどこに記載されているか分からない」との回答が多かった（図17）。その改善策として「情報の場所を明確にする」「診療情報提供

書とセットで運用する」ことが挙げられた（図18）。

D. 考察

薬剤師を対象としたアンケート調査およびインタビュー調査より、院外から急性期医療機関への移行および院内での情報連携の現状が明らかとなった。

院外から急性期医療機関へ移行する場合、一般病棟では情報連携が十分に行われているとの回答が多かった一方で、重症病棟、手術室および救急外来では、十分に行われていないと回答した施設も多かった。その理由として、「情報共有ツールやシステムの未整備」「標準化された情報伝達フォーマットがない」ことが挙げられた。薬局から病院へ情報提供を行う共通のツールとして「トレーシングレポート」があるが、入院前の情報提供に特化した共通のフォーマットは地域によって差があり発展途上である。地域との情報連携を円滑に行っている施設では、地域ネットワークシステムを活用していることが明らかとなった。従って、共通のフォーマットを用いた入院時服薬情報の提供を可能とする地域ネットワークシステムの開発と普及が今後の促進要因となり得る。

また、院外から救急外来へ移行する際の情報連携を円滑に行っている施設では、救急外来に薬剤師が常駐しており、迅速な情報収集および共有が可能になっていた。従って、救急外来への薬剤師の常駐も、急性期医療での薬剤情報連携において重要な課題であると考えられる。

病院内での情報連携については、60~80%行われているという印象を持つ施設が多かった。電子カルテを用いた情報連携が行わ

れている施設が多かったが、情報不足や情報共有すべき事項の知識・認識不足が課題として挙げられた。円滑に情報共有が行われている施設では、他職種との話し合い等で共有すべき情報をあらかじめ設定し、電子カルテのテンプレート機能やメール機能などを活用しながら情報共有を行っている。アンケート調査結果から明らかとなった各部署で必要とする情報の項目を基に、共通のフォーマットを作成し、院内で啓発、普及させることが更なる情報連携促進につながると考える。

一方、急性期医療機関から退院する場合、情報提供が十分に行われていないことが明らかとなった。薬剤管理サマリーなどの共通のフォーマットは存在するものの、時間不足や患者の退院予定日を把握することの困難さから情報提供が難しいことが明らかとなった。これらの課題を解決するためには、薬剤管理サマリーに記載すべき必要最低限の項目を設定するなどの工夫が必要であると考えられる。更に日々の電子カルテ記録を自動で要約し、薬剤管理サマリーや地域ネットワークシステムに転記するAI等の開発も今後必要となってくるだろう。

医師および看護師を対象としたアンケート調査からは、薬剤師による薬剤情報提供の有用性が明らかとなった。アンケート調査に回答した多くの医師、看護師からは、診療情報提供書や看護サマリーに記載される薬剤情報は不足しており、薬剤師による薬

剤情報が有用であるとの意見が得られた。一方で、薬剤情報の記載場所が明確でないこと、薬剤師からの情報提供がないことが課題として明らかとなった。この結果から薬剤師による情報提供の他職種に向けた周知が十分でないことが示唆される。医師および看護師に認識してもらうためには、診療情報提供文書や看護サマリーとの連携した運用が必要であることが考えられる。

E. 結論

本研究より、急性期医療における薬剤情報連携の現状と課題、それに対する具体的な解決策が明らかとなった。薬剤師による薬剤情報連携は、状態が変わりゆく患者の安全な薬物治療に伴走する上で重要である。しかし、薬剤師の人手不足や時間不足により、正確な情報連携が困難である。正確かつ迅速な薬剤情報連携を実現するためには、標準的な情報連携統一フォーマット等の作成を行い、啓発活動を行っていくことが重要である。それと同時に、業務の効率化を目指したAI等の医療DXを活用する情報連携ツールの開発および普及が求められる。

F. 研究発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

ケア移行時における薬剤情報の連携に関する 実態調査 (急性期病院対象)

I. 回答病院・回答者の属性に関するアンケート

1. 所属する医療機関に設置されている病棟を以下の中から選んでください（複数選択可）

- 一般病棟
- ICU等ケアユニット
- 回復期リハビリテーション病棟
- 地域包括ケア病棟
- 療養病棟
- 介護老人保健施設
- 地域包括医療病棟

2. 1. で回答された病棟の病床数をお答えください。

- 一般病棟（ ）床
- ICU等ケアユニット（ ）床
- 回復期リハビリテーション病棟（ ）床
- 地域包括ケア病棟（ ）床
- 療養病棟（ ）床
- 介護老人保健施設（ ）床
- 地域包括医療病棟（ ）床

3. 年間手術件数をお答えください

全身麻酔（ ）件

4. 年間救急車受け入れ台数をお答えください

（ ）件

5. 薬剤部・科（治験を除く）の薬剤師数をお答えください（常勤換算：週40時間勤務）

（ ）人

6. 薬剤師が常駐（または専従）している部署を教えてください

- 救急外来
- 手術室
- 重症病棟
- 一般病棟
- 入院前外来（術前外来・地域連携室等）

7. 周術期薬剤管理加算算定の有無を教えてください

有、 無

8. 院外処方箋発行率を教えてください（直近の月）

（ ）%

9. 先進的な取り組みを実施している病院にはヒアリング調査を計画しています。協力いただけるとご施設は施設名を記入してください。

(県、 病院)

Ⅱ. ケア移行時の薬剤情報連携に関するアンケート

Ⅱ-1 一般病棟へのケア移行（院内外）

1-1)自宅・施設、1-2)他病院、1-3)救急外来、1-4)重症病棟、1-5)手術室、

⇒ 急性期病院（一般病棟） [入院・転院・転棟]

※一般病棟担当薬剤師が患者を受け入れる立場として回答してください

い

1. 現状の情報共有体制について

1-1) 現在、ケア移行時における薬剤情報の提供・共有はどの程度実施されていますか？

患者ベースでお答えください。

	自宅・施設 場面 1-1	他病院 場面 1-2	救急外来 場面 1-3	重症病棟 場面 1-4	手術室 場面 1-5
十分に行われている（80%以上）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
行われている（60%以上80%未満）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
一部で行われている（30%以上60%未満）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ほとんど行われていない（10%以上30%未満）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
行われていない（10%未満）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
該当なし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

1-2) 情報共有を行う際どのようなツールが使用されていますか？（複数選択可）

3) ケア移行時に必要な情報

3-1) 各ケア移行場面で、迅速に提供して欲しい情報（処方情報、副作用・アレルギー情報以外）を1位から3位まで順位をつけてください。

	自宅・施設 場面 1-1	他病院 場面 1-2	救急外来 場面 1-3	重症病棟 場面 1-4	手術室 場面 1-5
服薬指導内容					
薬剤の使用理由					
薬剤の変更歴 (最近のもの)					
ケア移行後のフ ォローアップの 必要性 (モニタ リング項目や評 価時期、中止再 開薬剤予定)					
OTC, サプリメ ントの使用					
投与経路 (経 口、経管)・調 剤方法の工夫					
ケア移行目的・ 病名・治療内 容・術式					
既往歴					
検査値					
服薬アドヒアラ ンス状況					
服薬管理状況 (自己管理、看 護師管理など)					
認知機能低下の 有無					
患者の生活面に 関する情報 (ADL、自宅 の生活環境な ど)					

患者の変化・イベント					
せん妄リスクと術中対応					
PONV（術後悪心・嘔吐）リスクと術中予防					

3-2) ケア移行時に、現在不足していると感じる情報や課題について具体例があれば教えてください。(複数回答可)

自宅・施設 場面 1-1	
他病院 場面 1-2	
救急外来 場面 1-3	
重症病棟 場面 1-4	
手術室 場面 1-5	

II-2 重症病棟へのケア移行（院内）

2-1)救急外来, 2-2)手術室, 2-3) 一般病棟 ⇒ 重症病棟 [転棟]

※重症病棟担当薬剤師が患者を受け入れる立場として回答してください

1. 現状の情報共有体制について

1-1) 現在、ケア移行時における薬剤情報の提供・共有はどの程度実施されていますか？

患者ベースでお答えください。

	救急外来 場面 2-1	手術室 場面 2-2	一般病棟 場面 2-3
十分に行われている (80%以上)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
行われている (60% 以上 80%未満)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
一部で行われている (30%以上 60%未 満)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ほとんど行われてい ない (10%以上 30%未満)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
行われていない (10%未満)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
該当なし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

1-4) 情報共有がスムーズに行われない場合、どのような影響がありますか？
 (複数選択可)

経験した中で特に影響が大きかったもの3つを選択してください

	救急外来 場面 2-1	手術室 場面 2-2	一般病棟 場面 2-3
投薬エラーなどの医療過誤 (再開・中止忘れを含む)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
患者のアドヒアランス低下	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
患者・家族の不安増大	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
副作用・相互作用の見逃し	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
情報の再確認に時間がかかる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
不要な医療・介護サービスの発生	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
再入院・重症化による医療費増大	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

その他 (場面と内容を記載してください)

(場面： 内容：
)

2) 情報共有ができていない/できている理由

2-1) 薬剤情報の共有が難しいと感じる理由は何ですか？ (複数選択可)

	救急外来 場面 2-1	手術室 場面 2-2	一般病棟 場面 2-3
情報共有のための時間不足	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
情報提供のためのツールやシステムが整備されていない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
標準化された情報伝達のフォーマットがない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
薬剤師間の連携不足	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
他職種間のコミュニケーション不足	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
情報共有すべき事項の知識・認識不足	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

3) ケア移行時に必要な情報

3-1) 各ケア移行場面で、迅速に提供して欲しい情報（処方情報、副作用・アレルギー情報以外）を1位から3位まで順位をつけてください。

	救急外来 場面 2-1	手術室 場面 2-2	一般病棟 場面 2-3
服薬指導内容			
薬剤の使用理由			
薬剤の変更歴（最近のもの）			
ケア移行後のフォローアップの必要性 （モニタリング項目や評価時期、中止再開薬剤予定）			
OTC、サプリメントの使用			
投与経路（経口、経管）・調剤方法の工夫			
ケア移行（入院）目的・病名・治療内容・術式			
既往歴			
検査値			
服薬アドヒアランス状況			
服薬管理状況（自己管理、看護師管理など）			
認知機能低下の有無			
患者の生活面に関する情報（ADL、自宅の生活環境など）			
せん妄リスクと術中対応			
PONV（術後悪心・嘔吐）リスクと術中予防			

3-2) ケア移行時に、現在不足していると感じる情報や課題について具体例があれば教えてください。（複数回答可）

救急外来 場面 2-1	
手術室 場面 2-2	
一般病棟 場面 2-3	

II-3 手術室へのケア移行（院内）

3-1) 救急外来, 3-2) 重症病棟, 3-3) 一般病棟 ⇒ 手術室

※手術室担当薬剤師が患者を受け入れる立場として回答してください

1. 現状の情報共有体制について

1-1) 現在、ケア移行時における薬剤情報の提供・共有はどの程度実施されていますか？

患者ベースでお答えください。

	救急外来 場面 3-1	重症病棟 場面 3-2	一般病棟 場面 3-3
十分に行われている (80%以上)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
行われている(60% 以上 80%未満)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
一部で行われている (30%以上 60%未 満)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ほとんど行われてい ない(10%以上 30%未満)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
行われていない (10%未満)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
該当なし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

1-2) 情報共有を行う際どのようなツールが使用されていますか？（複数選択可）

	救急外来 場面 3-1	重症病棟 場面 3-2	一般病棟 場面 3-3
お薬手帳	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
情報提供文書（他 職種から）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
情報提供文書（薬 剤師から）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
口頭（電話、対 面）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
電子カルテシステ ム	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
部門システム	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

薬剤師記録	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
-------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

その他（場面と内容を記載してください）

（
）

1-3) 各場面で情報共有の問題であてはまるものをお答えください（複数選択可）。

	救急外来 場面 3-1	重症病棟 場面 3-2	一般病棟 場面 3-3
問題と感じたことはない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
情報不足	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
タイムラグの発生	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
形式の統一性欠如	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

その他（場面と内容を記載してください）

（場面： 内容：
）

1-4) 情報共有がスムーズに行われない場合、どのような影響がありますか？
（複数選択可）

経験した中で特に影響が大きかったもの3つを選択してください

	救急外来 場面 3-1	重症病棟 場面 3-2	一般病棟 場面 3-3
投薬エラーなどの医療過誤（再開・中止忘れを含む）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
患者のアドヒアランス低下	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
患者・家族の不安増大	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
副作用・相互作用の見逃し	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
情報の再確認に時間がかかる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
不要な医療・介護サービスの発生	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
再入院・重症化による医療費増大	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

その他（場面と内容を記載してください）

(場面：) 内容：

3) ケア移行時に必要な情報

3-1) 各ケア移行場面で、迅速に提供して欲しい情報（処方情報、副作用・アレルギー情報以外）を1位から3位まで順位をつけてください。

	救急外来 場面 3-1	重症病棟 場面 3-2	一般病棟 場面 3-3
服薬指導内容			
薬剤の使用理由			
薬剤の変更歴（最近のもの）			
ケア移行（入院）後のフォローアップの必要性（モニタリング項目や評価時期、中止再開薬剤予定）			
OTC、サプリメントの使用			
投与経路（経口、経管）・調剤方法の工夫			
ケア移行（入院）目的・病名・治療内容・術式			
既往歴			
検査値			
服薬アドヒアランス状況			
服薬管理状況（自己管理、看護師管理など）			
認知機能低下の有無			
患者の生活面に関する情報（ADL、自宅の生活環境など）			
患者の変化・イベント			

3-2) ケア移行時に、現在不足していると感じる情報や課題について具体例があれば教えてください。（複数回答可）

救急外来 場面 3-1	
重症病棟 場面 3-2	
一般病棟 場面 3-3	

4) 改善に向けて

4-1) ケア移行時における薬剤情報の連携を改善するために必要だと考えることを教えてください。

	救急外来 場面 3-1	重症病棟 場面 3-2	一般病棟 場面 3-3
システムの導入（電子カルテや共有プラットフォーム）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
薬剤師同士の定期的なミーティング	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
多職種連携のための定期的なミーティング	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
情報の標準化（統一フォーマットの作成など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教育や研修の充実	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

4-2) その他、ご意見やご要望があればご自由にお書きください。（自由記述）

II-4 救急外来へのケア移行

4-1) 在宅、4-2)介護施設、4-3)他病院 ⇒ 救急外来

※救急外来担当薬剤師が患者を受け入れる立場として回答してください

1. 現状の情報共有体制について

1-1) 現在、ケア移行時（在宅・介護施設、他病院からの救急搬送、救急外来受診）における救急外来での薬剤情報の把握はどの程度実施されていますか？

在宅、老人・介護施設、他病院からの救急搬送患者ベースでお答えください。

※患者の身元、搬送元施設、かかりつけ医、かかりつけ薬局の情報がある程度得られた患者を想定して回答してください。

	在宅（自宅） 場面 4	老人・介護施設 場面 4	他病院 場面 4
十分に行われている（80%以上）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
行われている（60%以上80%未満）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
一部で行われている（30%以上60%未満）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ほとんど行われていない（10%以上30%未満）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
行われていない（10%未満）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
該当なし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

1-2) 情報共有を行う際どのようなツールが使用されていますか？（複数選択可）

	在宅（自宅） 場面 4	老人・介護施設 場面 4	他病院 場面 4
お薬手帳	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
情報提供文書（他職種から）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
情報提供文書（薬剤師から）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
口頭（電話、対面）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
地域医療情報ネットワーク	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
マイナポータル・オンライン資格確認システム	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

その他（場面と内容を記載してください）

3) ケア移行時に必要な情報

3-1) 各ケア移行場面で、迅速に提供して欲しい情報(処方情報、副作用・アレルギー情報以外)を1位から3位まで順位をつけてください。

	在宅（自宅） 場面 4	老人・介護施設 場面 4	他病院 場面 4
服薬指導内容			
薬剤の使用理由			
薬剤の変更歴（最近のもの）			
ケア移行後のフォローアップの必要性（モニタリング項目や評価時期、中止再開薬剤予定）			
OTC、サプリメントの使用			
投与経路（経口、経管）			
ケア移行（入院）目的・病名・調剤方法の工夫			
既往歴			
検査値			
服薬アドヒアランス状況			
服薬管理状況（自己管理、看護師管理など）			
認知機能低下の有無			
患者の生活面に関する情報（ADL、自宅の生活環境など）			
患者の変化・イベント			

3-2) ケア移行時に、現在不足していると感じる情報や課題について具体例があれば教えてください。（複数回答可）

在宅（自宅） 場面 4	
老人・介護施設 場面 4	
他病院 場面 4	

4) 改善に向けて

4-1) ケア移行時における薬剤情報の連携を改善するために必要だと考えることを教えてください。

	在宅（自宅） 場面 4	老人・介護施設 場面 4	他病院 場面 4
システムの導入（電子カルテや共有プラットフォーム）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
薬剤師同士の定期的なミーティング	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
多職種連携のための定期的なミーティング	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
情報の標準化（統一フォーマットの作成など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教育や研修の充実	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

4-2) その他、ご意見やご要望があればご自由にお書きください。（自由記述）

Ⅲ 退院時の情報提供について

※病棟担当薬剤師が回答してください

1) 退院時にケア移行先に伝えたい情報がある場合、情報提供（退院時薬剤管理サマリーの作成）はどの程度実施されていますか？

患者ベースでお答えください。

- 十分に行われている（80%以上）
- 行われている（60%以上 80%未満）
- 一部で行われている（30%以上 60%未満）
- ほとんど行われていない（10%以上 30%未満）
- 行われていない（10%未満）

2) 十分に行われていない場合、その理由を教えてください（複数回答可）。

- 作成に時間がかかる（項目が多すぎる）
- 退院予定が不規則で退院時薬剤管理サマリー作成の予定が立てにくい
- 退院日の決定が直前で退院時患者面談のタイミングがあわない
- 退院先での利用状況が分からない
- 退院先で退院時薬剤管理サマリーが十分に活用されと思えない
- 所属長が推進していない
- その他（ ）

医師を対象としたアンケート調査用紙

IV-1 薬剤師が提供する情報の利用

※医師が回答してください

- 1) 所属部門をお応えください
 - 一般病棟
 - クリティカル部門
 - 手術部

- 2) ケア移行時に薬剤師が提供する情報の利用について現状を教えてください。
 - 利用している
 - ときどき利用している
 - 利用していない

- 3) 利用している場合、ケア移行時に薬剤師が提供する情報について、有用と思いますか？
 - かなり有用
 - 有用
 - あまり有用ではない
 - 有用ではない

- 4) 「かなり有用」、「有用である」の場合、その理由を教えてください。
 - 用法用量の詳細が記載されている
 - 副作用、アレルギー情報がある
 - OTC 健康食品等の情報がある
 - 開始時期の情報など、服用歴の情報がある
 - 服薬管理情報がある（自己管理、看護師管理など）
 - 調剤方法（一包化、粉碎等）、投与経路（経口、経管等）の情報がある
 - 認知機能の情報がある
 - アドヒアランスの情報がある
 - ケア移行後の薬学的管理やフォローアップ依頼の情報がある
 - その他

- 5) 利用していない場合の理由
 - 提供がない
 - 情報がどこに記載されているかわからない

- 内容が不十分
- 診療情報提供書で間に合っている
- 看護サマリーで間に合っている
- その他（ ）

6) 利用していない場合、利用するためには何を改善すればよいでしょうか？

- 必要なすべての患者で情報提供する
- 情報の場所を明確にする
- 診療情報提供書とセットで運用する
- 看護サマリーとセットで運用する
- その他（自由記載： ）

7) 医師の診療情報提供書の内容について、薬剤情報は不足しているでしょうか？

- 不足していない
- 一部不足している
- かなり不足している

8) 看護サマリーの内容について、薬剤情報は不足しているでしょうか？

- 不足していない
- 一部不足している
- かなり不足している

【アンケート調査方法】

本アンケート調査（看護師向け）では、急性期病院（約 500 施設）の看護師を対象に、薬剤師が提供する薬剤情報（薬剤管理サマリー）の有用性、および医師の診療情報提供書や看護サマリーとの違い等の調査を実施します。

Form（QR コード）から回答してください。なお、回答にはおよそ 5 分程度要します。

看護師を対象としたアンケート調査用紙

IV-1 薬剤師が提供する情報の利用

※看護師が回答してください

- 1) 所属部門をお応えください
 - 一般病棟
 - クリティカル部門
 - 手術部

- 2) ケア移行時に薬剤師が提供する情報の利用について現状を教えてください。
 - 利用している
 - ときどき利用している
 - 利用していない

- 3) 利用している場合、ケア移行時に薬剤師が提供する情報について、有用と思いますか？
 - かなり有用
 - 有用
 - あまり有用ではない
 - 有用ではない

- 4) 「かなり有用」、「有用である」の場合、その理由を教えてください。
 - 用法用量の詳細が記載されている
 - 副作用、アレルギー情報がある
 - OTC 健康食品等の情報がある
 - 開始時期の情報など、服用歴の情報がある
 - 服薬管理情報がある（自己管理、看護師管理など）
 - 調剤方法（一包化、粉碎等）、投与経路（経口、経管等）の情報がある
 - 認知機能の情報がある
 - アドヒアランスの情報がある
 - ケア移行後の薬学的管理やフォローアップ依頼の情報がある
 - その他

- 5) 利用していない場合の理由
 - 提供がない
 - 情報がどこに記載されているかわからない
 - 内容が不十分

- 診療情報提供書で間に合っている
- 看護サマリーで間に合っている
- その他（ ）

6) 利用していない場合、利用するためには何を改善すればよいでしょうか？

- 必要なすべての患者で情報提供する
- 情報の場所を明確にする
- 診療情報提供書とセットで運用する
- 看護サマリーとセットで運用する
- その他（自由記載： ）

7) 医師の診療情報提供書の内容について、薬剤情報は不足しているでしょうか？

- 不足していない
- 一部不足している
- かなり不足している

8) 看護サマリーの内容について、薬剤情報は不足しているでしょうか？

- 不足していない
- 一部不足している
- かなり不足している

ケア移行時における薬剤関連情報の連携に関するインタビュー調査

1. 情報連携の状況

- 1-1 ケア移行のどの場面で情報連携を行っているか
- 1-2 誰と誰が連携しているか
- 1-3 情報連携ができていない理由
- 1-4 情報連携を行うために何か工夫しているか
- 1-5 情報連携ができていないケア移行の場面がある場合、その理由
- 1-6 今後、情報連携を行うために必要な条件

2. 情報連携の内容

- 2-1 情報連携のためにどのようなツールを使用しているか
- 2-2 どのような情報を提供しているか
- 2-3 どのような情報を必要としているか
- 2-4 必要としている情報が提供されているか
- 2-5 お互いにどのような情報が必要か、連携相手と確認できているか
- 2-5 医療 DX が進んでも、引き続き連携が必要な情報はありますか

3. 情報連携の効果

- 3-1 情報連携により、どのような取り組みにつながったか
- 3-2 その取り組みにより、どのような患者アウトカムが得られたか
- 3-3 情報連携により、業務が効率化されたか
- 3-4 情報連携により、医師の負担軽減につながったか
- 3-5 情報連携に関して、他職種からの評価はどうか

薬剤師を対象としたアンケート調査およびインタビュー調査

図1.アンケート調査を回答した医療施設の内訳

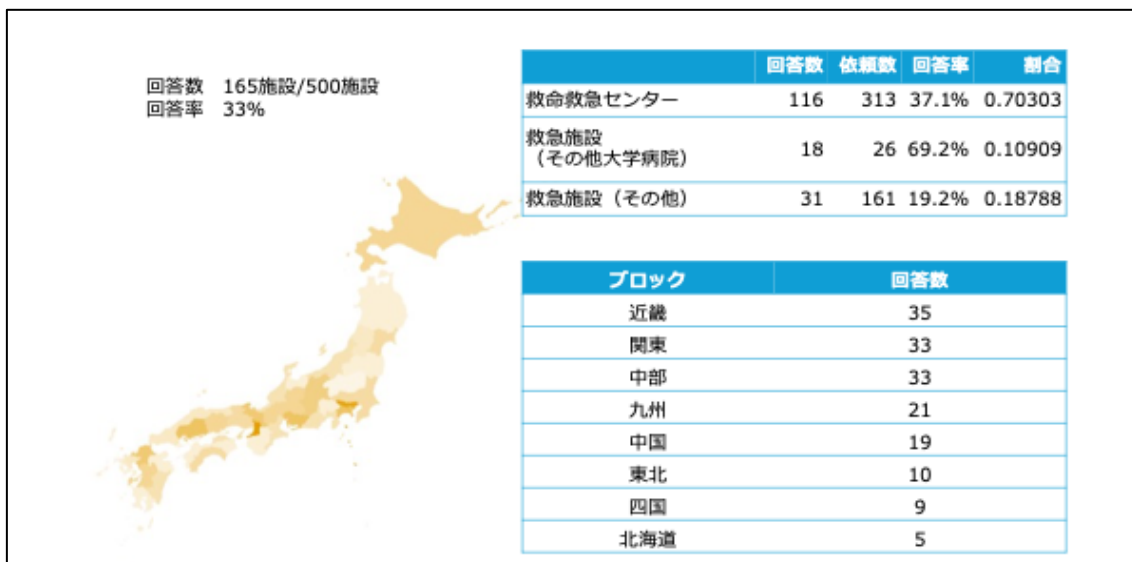


図2.薬剤師が常駐（または専従）している部署

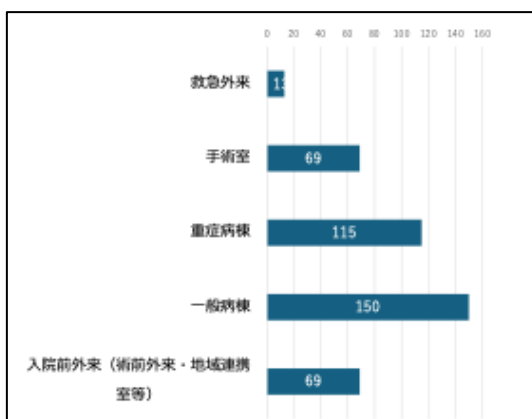


図3.周術期薬剤管理加算の算定状況

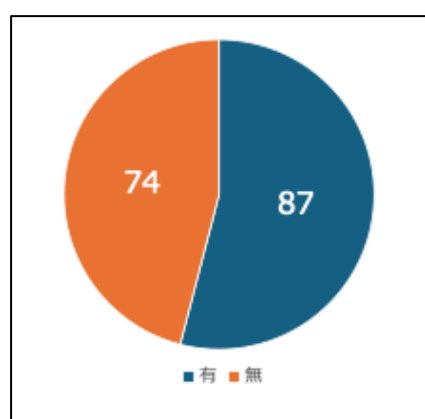


図4.各ケア移行場面における薬剤情報連携の実施状況

現在、ケア移行時における薬剤情報の提供・共有はどの程度実施されているか？

ケア移行先	一般棟					重症病棟			手術室			救急外来		
	自宅・施設	他病院	救急外来	重症病棟	手術室	救急外来	手術室	一般病棟	救急外来	重症病棟	一般病棟	在宅(自宅)	老人・介護施設	他病院
十分に行われている (80%以上)	62	53	36	69	41	15	31	47	4	23	46	8	14	22
行われている (60%以上80%未満)	62	56	35	43	33	37	34	52	22	35	33	29	25	29
一部で行われている (30%以上60%未満)	23	26	35	27	25	32	28	26	20	21	15	29	27	19
ほとんど行われていない (10%以上30%未満)	8	13	14	10	19	22	17	18	20	15	8	7	5	5
行われていない (10%未満)	8	13	32	10	34	42	41	10	56	32	24	31	32	28

表1. 術室・救急外来配置、周術期薬剤管理加算と情報共有の頻度の関係
：順序ロジスティック回帰分析

ケア移行	オッズ比 (95%信頼区間)	p値
救急外来配置あり (n=14), なし (n=152)		
救急外来→一般病棟	4.565(1.584-13.156)	0.0049
救急外来→重症	3.432(1.253-9.402)	0.0165
救急外来→手術	1.191(0.432-3.283)	0.7356
自宅→救急外来	4.089(1.415-11.820)	0.0093
介護施設→救急外来	4.739(1.644-13.658)	0.004
他病院→救急外来	3.632(1.265-10.432)	0.0166
手術室配置あり (n=70), なし (n=96)		
手術室→一般病棟	1.384(0.782-2.448)	0.264
手術室→重症	0.797(0.451-1.408)	0.4344
一般病棟→手術室	1.788(0.946-3.379)	0.0737
重症病棟→手術室	1.103(0.592-2.056)	0.7577
救急外来→手術室	0.658(0.342-1.267)	0.2104
周術期薬剤管理加算算定あり (n=88), なし (n=74)		
手術室→一般病棟	1.682(0.946-2.991)	0.0768
手術室→重症	1.410(0.791-2.513)	0.2445
一般病棟→手術室	3.338(1.696-6.573)	0.0005
重症病棟→手術室	2.191(1.133-4.234)	0.0197
救急外来→手術室	0.869(0.442-1.709)	0.6834

図5. 各ケア移行場面において活用している薬剤情報連携ツール

**情報共有を行う際どのようなツールが使用されていますか？
(複数選択可)**

ケア移行先	一般棟					重症病棟			手術室			救急外来		
	自宅・施設	他病院	救急外来	重症病棟	手術室	救急外来	手術室	一般病棟	救急外来	重症病棟	一般病棟	在宅(自宅)	老人・介護施設	他病院
お薬手帳(患者持参)	162	146	112	73	37				47	45	49	101	93	91
情報提供文書(他職種から)	103	139	62	42	20	62	30	33	31	31	29	49	77	90
口頭(電話、対面)	63	48	49	63	45	60	54	100	34	44	45	46	37	40
電子カルテシステム	60	41	108	134	121	116	110	127	92	110	112			
情報提供文書(薬剤師から)	49	86	21	24	5	16	13	29	11	18	21	17	11	33
マイナポータル・オンライン資格確認システム	43	24	18	8	2							29	21	20
薬剤師記録	28	13	34	103	62	31	61	110	27	78	84			
地域医療情報ネットワーク	14	17	7	4	4							7	7	8
部門システム	12	7	9	29	32	22	35	33	18	21	23			

図6. 各ケア移行場面における薬剤情報連携に関する問題

**各場面で情報共有の問題であてはまるものをお答えください
(複数選択可)**

ケア移行先	一般棟					重症病棟			手術室			救急外来		
	自宅・施設	他病院	救急外来	重症病棟	手術室	救急外来	手術室	一般病棟	救急外来	重症病棟	一般病棟	在宅(自宅)	老人・介護施設	他病院
情報不足	126	119	117	72	68	114	71	63	87	50	43	89	85	81
タイムラグの発生	65	65	67	33	39	71	42	49	52	48	37	48	47	45
形式の統一性欠如	53	58	38	37	29	41	26	40	27	24	22	33	36	42
問題と感じたことはない	19	21	26	65	65	14	50	53	18	39	49	6	8	10

図7. 各ケア移行場面における薬剤情報連携不足が及ぼす影響

**情報共有がスムーズに行われない場合、
どのような影響がありますか？（複数選択可）**

ケア移行先	一般棟					重症病棟			手術室			救急外来		
	自宅・施設	他病院	救急外来	重症病棟	手術室	救急外来	手術室	一般病棟	救急外来	重症病棟	一般病棟	在宅(自宅)	老人・介護施設	他病院
投薬エラーなどの医療過誤(再開・中止忘れを含む)	146	141	128	125	110	120	105	132	87	96	101	90	91	92
情報の再確認に時間がかかる	114	120	111	93	72	112	88	99	78	72	73	77	73	71
副作用・相互作用の見逃し	88	94	95	94	86	97	91	105	79	75	74	68	71	75
患者のアドヒアランス低下	41	27	17	19	10	11	7	9	4	5	7	10	6	5
患者・家族の不安増大	36	23	18	13	17	10	12	15	9	9	12	6	5	7
不要な医療・介護サービスの発生	15	19	11	14	12	15	20	21	12	12	11	18	20	16
再入院・重症化による医療費増大	8	5	11	10	16	10	19	12	13	14	12	9	8	11

図8. 各ケア移行場面における薬剤情報連携が困難となる要因

**薬剤情報の共有が難しいと感じる理由は何ですか？
（複数選択可）**

ケア移行先	一般棟					重症病棟			手術室			救急外来		
	自宅・施設	他病院	救急外来	重症病棟	手術室	救急外来	手術室	一般病棟	救急外来	重症病棟	一般病棟	在宅(自宅)	老人・介護施設	他病院
情報提供ツールやシステムの未整備	91	89	57	40	50	75	58	49	57	48	41	63	69	64
情報共有のための時間不足	81	80	100	95	91	74	76	89	93	86	80	56	54	58
標準化された情報伝達のフォーマットがない	75	91	60	47	44	66	50	60	56	47	39	62	68	62
情報共有すべき事項の知識・認識不足	56	43	49	48	45	60	47	68	43	42	42	45	46	40
薬剤師間の連携不足	54	66	34	50	40	26	37	55	29	36	33	24	25	37
他職種間のコミュニケーション不足	31	35	54	33	41	53	49	41	36	30	27	17	24	17
法律や規制による制約	18	16	9	6	5	11	2	3	4	3	3	9	9	8

図9. 各ケア移行場面における薬剤情報連携の促進要因

**薬剤情報の共有がスムーズに行えている場合、
その理由は何ですか？（複数選択可）**

ケア移行先	一般棟					重症病棟			手術室			救急外来		
	自宅・施設	他病院	救急外来	重症病棟	手術室	救急外来	手術室	一般病棟	救急外来	重症病棟	一般病棟	在宅(自宅)	老人・介護施設	他病院
お薬手帳などのツールを積極的に活用できている	133	101	74	41	22	80	31	54	32	29	35	80	70	67
電子カルテや薬剤情報共有システムを活用している	56	50	98	118	111	86	89	105	68	86	95			
患者・家族に対する服薬指導が徹底されている	48	18	13	6	4	11	9	14	1	1	13	16	4	5
薬剤師間の連携体制が構築できている	30	23	30	78	46	24	34	70	21	48	47	8	10	17
標準化された情報伝達のフォーマットを使用している	27	29	21	27	30	14	34	26	15	24	32	16	21	26
他職種間で連携体制が構築できている	26	30	39	23	25	19	17	20	14	14	16	7	15	16
情報共有すべき事項が周知されている	18	26	18	17	21	22	27	26	16	26	30	18	24	25

図10. 各ケア移行場面において必要とする薬剤に関連する情報の種類

ケア移行時に必要な情報

ケア移行先	一般棟					重症病棟			手術室			救急外来		
	自宅・施設	他病院	救急外来	重症病棟	手術室	救急外来	手術室	一般病棟	救急外来	重症病棟	一般病棟	在宅(自宅)	老人・介護施設	他病院
薬剤の変更歴(最近のもの)	100	113	73	87	37	86	34	97	49	59	59	62	59	61
薬剤の使用理由	96	106	99	93	59	98	65	85	60	64	63	70	67	75
服薬アドヒアランス状況	47	15	21	12	5	22	2	10	15	10	11	31	14	11
服薬管理状況	45	48	18	19	4	11	3	17	2	1	3	19	19	16
ケア移行後のフォローアップの必要性	38	55	67	83	79	51	75	83	51	60	64	28	32	42
投与経路・調剤方法の工夫	38	36	23	45	11	22	12	35	2	5	1	7	15	8
既往歴	23	20	26	10	10	43	13	12	41	33	33	23	25	26
服薬指導内容	21	23	12	17	7	8	6	25	4	4	5	2	2	5
ケア移行目的・病名・治療内容・術式	17	26	45	41	57	51	61	60	46	47	43	24	28	25
OTC、サプリメントの使用	16	2	8	0	7	14	5	1	30	20	24	9	4	2
患者の生活面に関する情報	14	5	9	3	2	7	2	8	4	0	2	7	8	4
検査値	13	13	30	19	13	25	19	14	34	39	36	10	12	18
患者の変化・イベント	10	12	31	35	44				22	22	19	14	17	11
認知機能低下の有無	7	4	1	2	0	3	1	6	4	2	3	3	5	2
せん妄リスクと術中対応					58			62						
PONVリスクと術中予防					65			65						

表3. 各ケア移行場面における薬剤情報連携に関する課題

ケア移行時に、現在不足していると感じる情報や課題について具体例があれば教えてください。

一般病棟	お薬手帳（紙/アプリ）の情報が古い、不十分、または未持参であることが多く、正確な薬剤情報がリアルタイムで得られない。特に 救急外来や他病院からの転棟/転院時に、規格、用法用量、中止/再開の理由などの情報が不足し 、投薬エラーや治療遅延につながる。部門システムの違いや、救急外来の薬剤師不在により、 情報共有に手間と時間を要する 。独居や認知機能の低下など、 患者要因による情報聴取の困難さ も課題である。
重症病棟	救急外来に薬剤師が常駐していない ため、常用薬や副作用歴などの 正確な服薬情報が不足し 、必須薬の再開が遅れる。手術室からの転棟時、PONVリスクや術中に使用された薬剤、アレルギー情報などの プロブレム情報共有が不足し 、後追い確認が必要となる。一般病棟からの転棟では、直近の治療内容や薬剤変更点、持参薬の中止理由が不明瞭なことが問題である。定型のフォーマットやリアルタイムでの情報共有体制が不足している。
手術室	緊急手術が多く、 薬剤師が介入する時間がないため、情報が不足したまま手術 となる。救急外来からの移行では、 抗血栓薬等の最終服薬情報 やアレルギー情報の正確な把握が困難である。情報不足により、DOACなど拮抗薬が必要な薬剤の提案が遅れが生じ、リスクの高い状態で手術となることがある。休薬指示が伝達されずOPE延期になる事例や、 術中・術後で使用する薬剤情報（疼痛管理、抗感染薬）の共有が不十分 である。
救急外来	薬剤師が常駐していない ため、情報の収集と正確性の担保が困難である。自宅や施設からの来院時、お薬手帳の情報が古い、または持参がないことが多く、服用状況やアドヒアランスの把握が難しい。特に DOACなどの重要薬剤の服用有無確認に時間を要する 。他病院からの搬送では、診療情報提供書に規格や用法用量の記載漏れが多く、 情報の正確性が低い 。意思疎通困難な患者では、家族等も薬の情報を知らないことが多く、情報収集に難渋する。

図11. 各ケア移行場面における薬剤情報連携の課題に対する改善策

ケア移行時における薬剤情報の連携を改善するために必要だと考えることを教えてください。（複数選択可）

ケア移行先	一般病棟					重症病棟			手術室			救急外来		
	自宅・施設	他病院	救急外来	重症病棟	手術室	救急外来	手術室	一般病棟	救急外来	重症病棟	一般病棟	在宅(自宅)	老人・介護施設	他病院
システムの導入(電子カルテや共有プラットフォーム)	104	99	74	66	65	75	60	57	67	61	61	68	70	72
情報の標準化(統一フォーマットの作成など)	93	103	86	82	75	88	76	85	73	67	67	63	68	65
教育や研修の充実	34	31	37	40	44	42	44	53	44	43	45	27	33	25
多職種連携のための定期的なミーティング	31	29	35	34	38	43	40	33	39	41	38	16	22	18
薬剤師同士の定期的なミーティング	27	26	31	65	45	23	39	51	25	38	38	15	11	25

図12. 急性期医療からの退院時薬剤情報提供の実施状況およびその理由

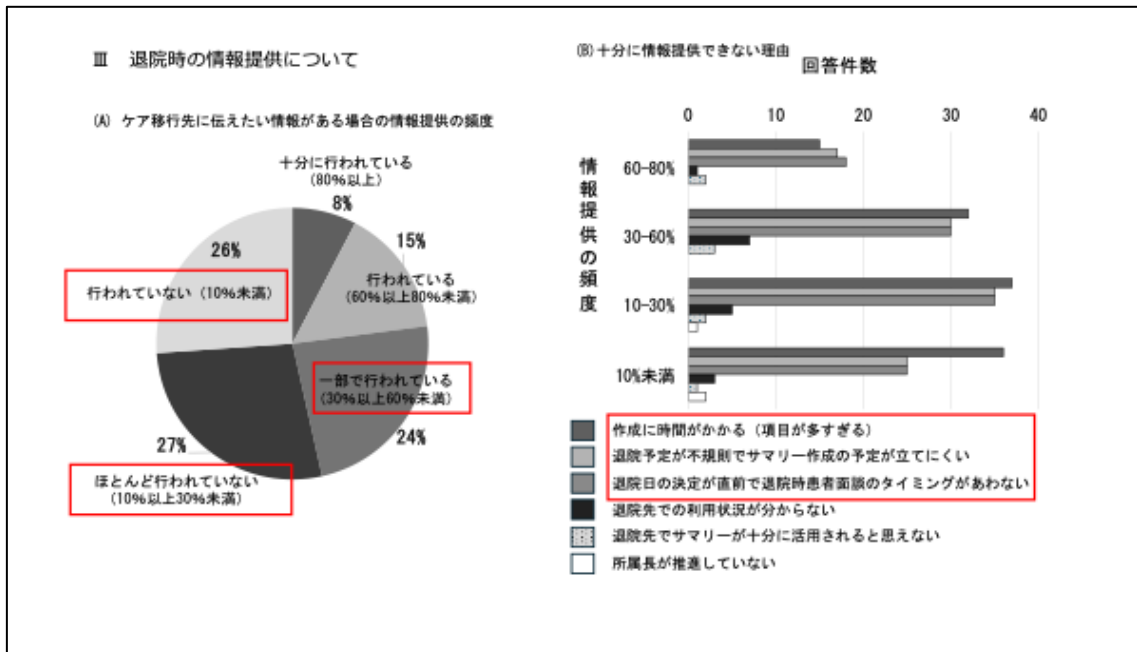


表4. 薬剤情報連携に関する課題と解決策

その他(自由記載) 簡易まとめ

ケア移行先	課題と解決策
一般病棟	限られた人的資源と時間のため、ケア移行時の薬剤情報連携が困難です。カルテ記載過多で情報確認に時間がかかり、業務拡大できません。施設間の能力差に影響されない 確実なシステム が必要です。 薬剤情報をコードデータとして電カルに反映させ、マイナポータルの普及によるタイムリーな情報取得 を期待します。各部署への薬剤師の配置と、薬剤情報の重要性の理解深化が求められています。
重症病棟	緊急度の高い患者対応が中心ですが、診療報酬上の問題で 薬剤師の配置が不十分 です。マンパワー不足や勤務時間外のカンファレンス参加が難しく、情報に遅れが生じます。 統一フォーマットは必要ですが、電子カルテからの転記ができないと手間が増えます。救急患者や独居患者からの情報収集は困難 です。DX推進により情報収集の負担軽減と精度向上を目指し、AIによる情報自動取りまとめが理想です。
手術室	地方病院では 医療スタッフ不足により、情報収集に時間を要し、情報提供する時間もあります。手術室や救急外来に十分な薬剤師配置が必要 です。手術場担当薬剤師は個々の症例介入や情報共有を現時点では行っていません。 抗血栓薬の休薬情報は必須ですが、薬剤師によるリスク判断が難しく、術前確認が遅れる現状 があります。アレルギー確認のためにも、病棟薬剤師や医師との連携が求められます。
救急外来	在宅や介護施設からの搬送時、 薬の現物のみで服薬状況情報が乏しいケースが多く、多職種連携が重要 です。救急外来担当薬剤師配置での 算定や常駐推進が必要 です。DX推進により「 情報を集める 」現状から「 活用する 」ことに主眼を移したい。緊急時に備え、普段から情報がそろったプラットフォームやフォーマットが必要です。中央集約的な薬剤情報により、時間外対応の効率化や対人業務への注力が可能となります。

表5. インタビュー調査から見てきた急性期医療におけるベストプラクティス事例

施設	情報共有の起点	主な関与職	使用ツール・方法	属人性低減の工夫	院外連携の視点	抽出される成功要因
A	救急外来/重傷病棟	薬剤師・医師	お薬手帳確認、口頭連絡、電子カルテ、医師サマリー	サマリー記載による情報集約	院内中心	早期介入、医師サマリーによる情報集約、救急外来への24時間配置
B	救急外来/重症病棟	薬剤師	口頭、電子カルテ 電子カルテ内のメールを活用	電子カルテ内のメールを活用した病棟転棟時の情報共有		電子カルテの機能の活用
C	救急外来/重症病棟	薬剤師	電子カルテの付箋機能を活用 持参薬や使用薬の中止、継続、再開について記載	ケア移行時に薬剤の変更状況を共有		電子カルテの機能の活用
D	一般病棟	薬剤師	退院時の薬剤管理サマリーを8割以上の患者で作成	退院時の情報をサマリーで共有	サマリーを用いた情報共有	薬剤管理サマリーの活用
E	手術室/一般病棟	薬剤師・医師	・電子カルテのテンプレート機能 病棟薬剤師と手術室薬剤師が共有、 チェック項目は麻酔科医と共同で作成。 ・地域ネットワークシステム	周術期 医師と共同でチェック項目を設定して共有 地域ネットワークシステムを用いた院外との連携	地域のネットワークシステムに加入 施設の情報は共有が容易	チェック項目を医師と統一 地域ネットワークの活用

医師および看護師を対象としたアンケート調査

図13. アンケート調査に回答した医師および看護師の属性

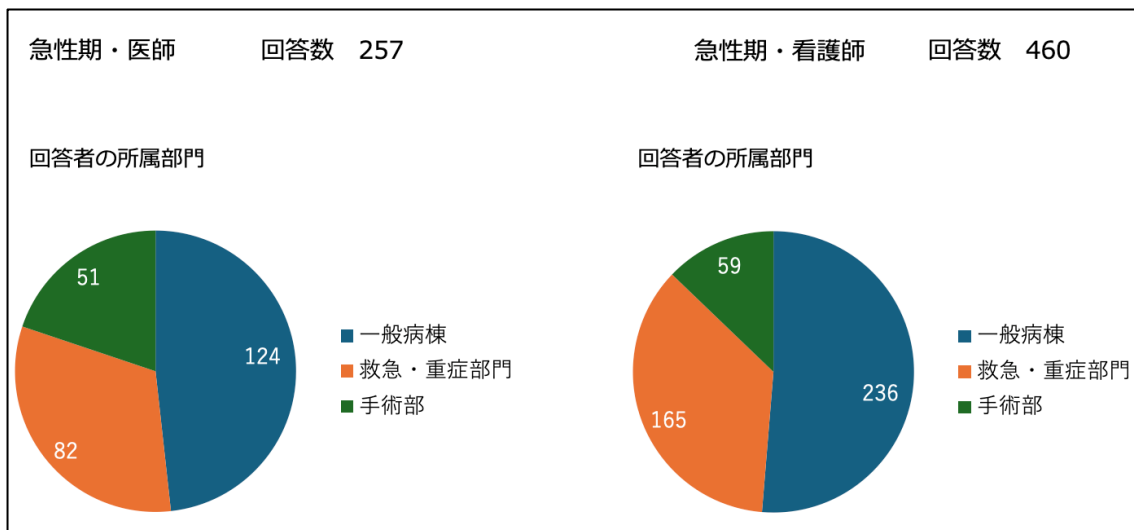


図14. 医師および看護師の薬剤情報の利用状況について

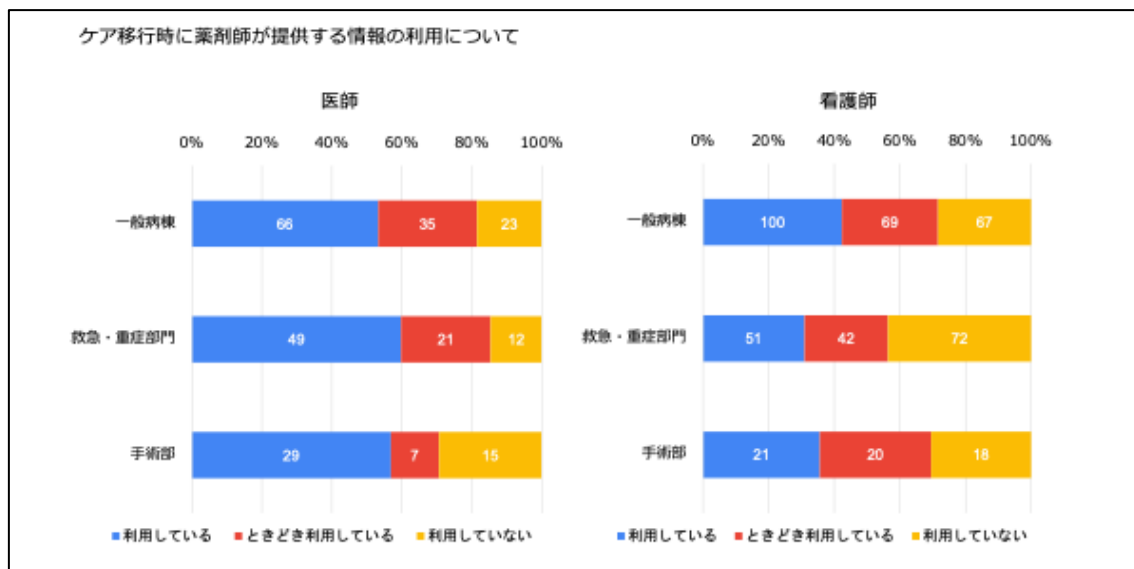


図15. 医師および看護師が利用する薬剤情報への印象

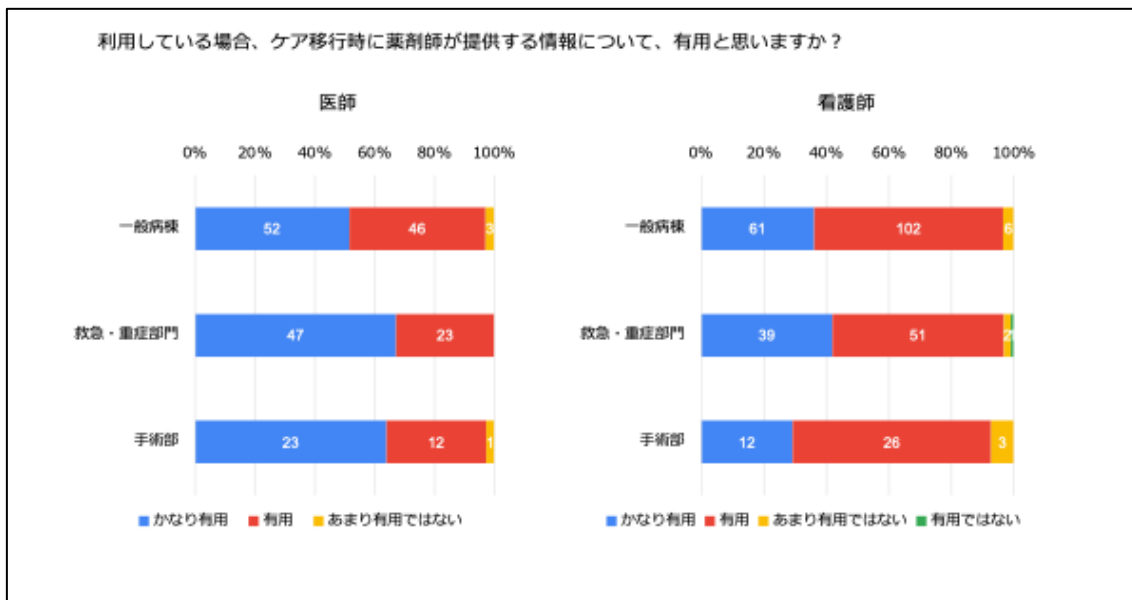


図16. 医師および看護師が薬剤情報を有用と考える理由

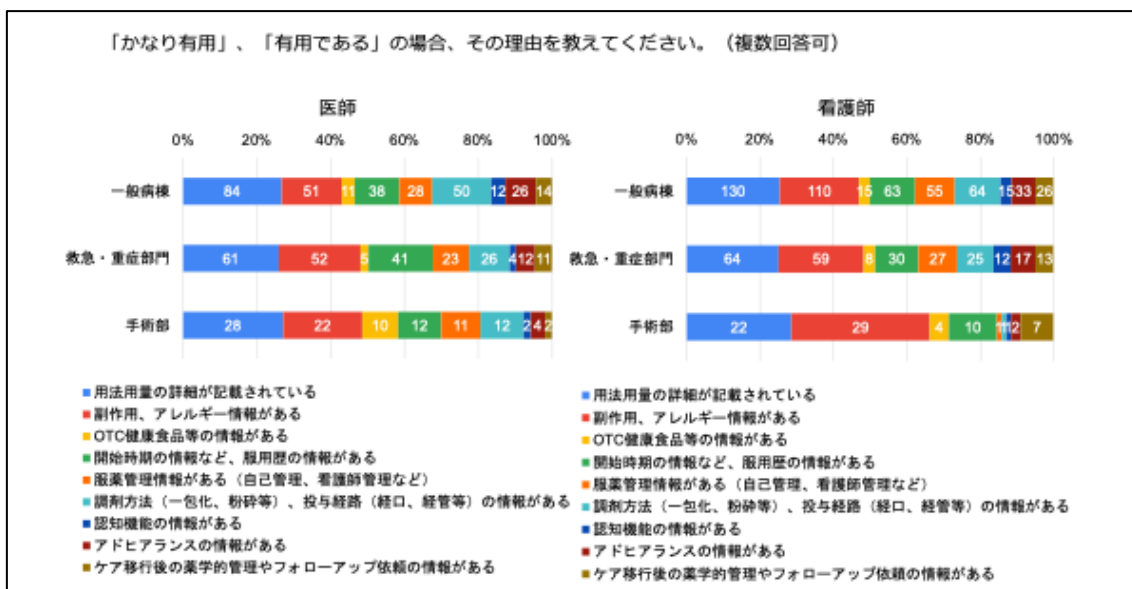


図17. 医師および看護師が考える薬剤情報の課題

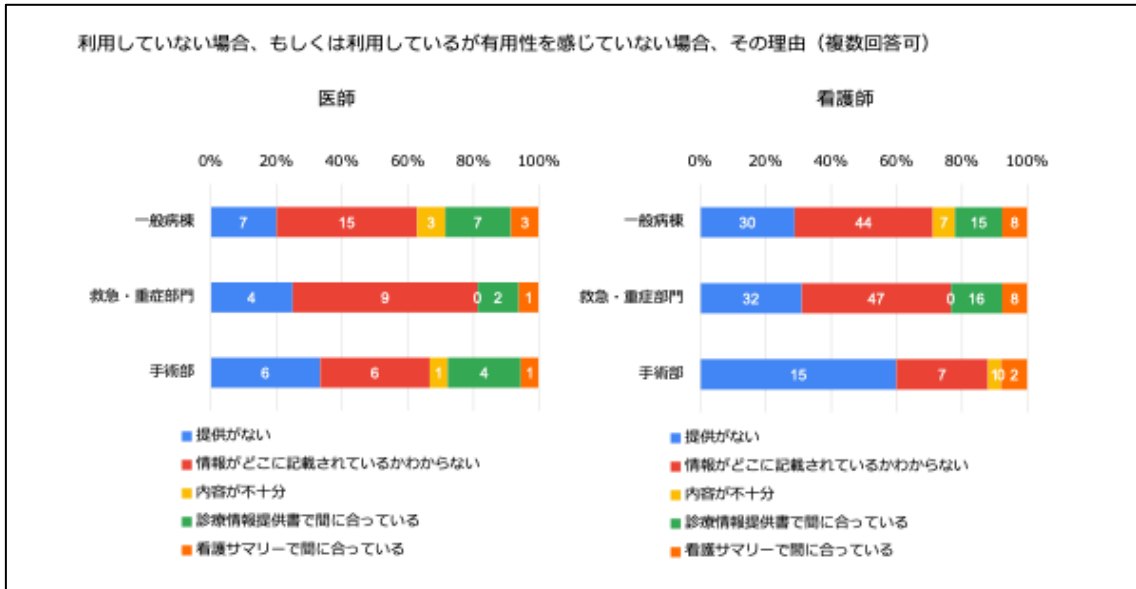


図18. 医師および看護師が考える薬剤情報の改善策

